

## **Oracle® Developer Suite**

クイック・インストレーション・ガイド

10g (9.0.4) Windows and UNIX

**B13572-02**

**ORACLE®**

# 1 はじめに

このドキュメントでは、Oracle Developer Suite のインストール方法について説明します。オラクル社では、本番環境や、すでに Oracle 製品がインストールされているコンピュータに Oracle Developer Suite をインストールする場合は、その前に Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドをお読みになることをお勧めします。

Oracle Developer Suite 10g のクイック・インストール・ガイドの内容は、次の表 1 のとおりです。

**表 1 このガイドの目次**

項目	内容
第 1 章「はじめに」	
第 2 章「ご注文内容の確認」	

**表 1 このガイドの目次 (続き)**

<b>項目</b>	<b>内容</b>
第 3 章 「インストール前の準備と要件」	3.1 項 「ハードウェア要件」
	3.2 項 「各コンポーネントとサポートされるオペレーティング・システム」
	3.3 項 「オペレーティング・システムのソフトウェア要件」
	3.4 項 「Windows へのインストールの準備」
	3.5 項 「UNIX へのインストールの準備」
	3.6 項 「移行およびアップグレードの注意」
	3.7 項 「インストール時に必要な情報」
第 4 章 「CD-ROM または DVD のマウント」	4.1 項 「Windows の CD-ROM または DVD のマウント」
	4.2 項 「UNIX の CD-ROM または DVD のマウント」
第 5 章 「ソフトウェアのインストール」	5.1 項 「インストーラの起動」
	5.2 項 「インストールの最初の手順」
	5.3 項 「インストール・タイプと製品の言語の選択」
	5.4 項 「実際のインストール手順」

**表 1 このガイドの目次（続き）**

<b>項目</b>	<b>内容</b>
第 6 章 「インストール完了後の作業」	6.1 項 「全般的なチェックリスト」 6.2 項 「コンポーネント別の作業」 6.3 項 「Oracle Developer Suite コンポーネントの起動」 6.4 項 「その他のドキュメント」
第 7 章 「アップグレード」	7.1 項 「以前のバージョン」 7.2 項 「Oracle9i JDeveloper (9.0.4)」 7.3 項 「Oracle Business Intelligence Beans」 7.4 項 「Oracle Reports」 7.5 項 「Oracle Discoverer Administrator」 7.6 項 「Oracle Forms」 7.7 項 「Oracle Software Configuration Manager」 7.8 項 「Oracle Designer」

**表 1 このガイドの目次 (続き)**

<b>項目</b>	<b>内容</b>
第 8 章「その他の情報」	8.1 項「クイック・リファレンス」
	8.2 項「オラクル製品のインストールに関する情報」
	8.3 項「Oracle Technology Network Japan」
	8.4 項「OracleDirect」
	8.5 項「サポート・サービス」
	8.6 項「研修サービス」

---

---

**注意：**すでに Oracle ホームが作成されているコンピュータにインストールする場合は、その前に Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドをお読みください。

---

---

## 2 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されていません。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Documentation CD

Documentation CD には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

---

---

**注意：** メディア・パックによって、Start Here CD や Documentation CD が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

---

---

## 3 インストール前の準備と要件

この章では、Oracle Developer Suite をインストールする前の準備と要件について説明します。オラクル社では、次の各項に記載された作業内容を確認し、完了しておくことをお勧めします。

### 3.1 ハードウェア要件

インストール先のコンピュータが次の表に記載されたハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

**表 2 ハードウェア要件**

ハードウェア構成要素	要件
CPU	500 MHz Pentium または互換プロセッサ 200 MHz SPARC プロセッサ 300 MHz HP PA-RISC 64 ビット・プロセッサ
メモリー	128 MB <sup>1</sup>

**表 2 ハードウェア要件**

<b>ハードウェア構成要素</b>	<b>要件</b>
ディスク領域 <sup>2</sup>	J2EE Development <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 568 MB</li><li>■ Solaris: 528 MB</li><li>■ HP-UX: 1.1 GB<sup>3</sup></li><li>■ Linux: 600 MB</li></ul> Business Intelligence (Windows のみ) <ul style="list-style-type: none"><li>■ 636 MB</li></ul> Rapid Application Development (Windows のみ) <ul style="list-style-type: none"><li>■ 943 MB</li></ul> 完全 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 943 MB</li><li>■ Solaris: 865 GB</li><li>■ HP-UX: 1.6 GB<sup>3</sup></li><li>■ Linux: 850 MB</li></ul>
ページファイルまたはスワップ領域の合計 <sup>4</sup>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 384 MB</li><li>■ UNIX: 500 MB</li></ul>



## 表 2 ハードウェア要件

---

ハードウェア構成要素	要件
------------	----

---

ビデオ	256 色以上
-----	---------

---

- 1 この製品のインストールに必要な最小容量。ただし、コンポーネントによっては、これ以上のメモリーが必要な場合もあります。コンポーネントごとに必要なメモリー容量については、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドを参照してください。
- 2 言語が英語の場合のみに必要なディスク領域。実際に必要なディスク領域は、インストール時に選択した言語によって異なります。ただしその場合、通常は C ドライブに、さらに 50 MB の一時ディスク領域が必要になります。
- 3 HP-UX の場合は、他のオペレーティング・システムよりも多くのディスク領域が必要になります。これは、HP-UX 用に 32 ビットと 64 ビットの両方の Oracle クライアント・サイド・ライブラリがインストールされるためです。
- 4 マルチユーザーの UNIX 環境で JDeveloper を使用する場合は、1 GB のスワップ領域を使用する必要があります。

### 3.2 各コンポーネントとサポートされるオペレーティング・システム

Oracle Developer Suite は、Microsoft Windows NT/2000/XP Professional、Sun Solaris 2.8 および 2.9、HP PA-RISC HP-UX (64 ビット) 11.00 および 11.11、Linux x86 オペレーティング・システムで使用できます。次の表に、Oracle Developer Suite コンポーネントとサポートされるオペレーティング・システムを示します。

---

**注意：** このドキュメントでは、"Linux" は Linux x86 オペレーティング・システムを表します。

---

**表 3 Oracle Developer Suite コンポーネントとオペレーティング・システム**

コンポーネント	Windows	Solaris	Linux	HP-UX
Oracle9i JDeveloper (9.0.4)	○	○	○	×
Oracle Reports	○	○	×	○
Oracle Discoverer Administrator	○	×	×	×
Oracle Forms	○	○	×	○
Oracle Software Configuration Manager	○	×	×	×
Oracle Designer	○	×	×	×

**UNIX に関する注意：**

- UNIX 版の Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2) には、Windows 版のコンポーネントもすべて同梱されていました。Oracle Developer Suite 10g (9.0.4) の最初の UNIX 版には、Windows 版のコンポーネントが含まれない場合があります。
- UNIX のデスクトップ環境で JDeveloper の動作が確認されているのは次のとおりです。
  - Solaris/CDE

- Linux/GNOME
- Linux/KDE2

### 3.3 オペレーティング・システムのソフトウェア要件

インストール先のコンピュータに、次のいずれかのオペレーティング・システムを必ずインストールしておいてください。

- Windows

**表 4 Windows オペレーティング・システムのソフトウェア要件**

バージョン	要件
NT 4.0	Service Pack 6a
2000	Service Pack 3 以上
XP Professional Edition	Service Pack 1 以上

---

---

**注意：** 最近のバージョンの Windows では、C 以外のシステム・ドライブを使用できます。このガイドでは、システム・ドライブを「デフォルトのシステム・ドライブ」と呼びます。デフォルトのシステム・ドライブには、C 以外を使用してもかまいません。

このガイドのほとんどの例では、デフォルトのシステム・ドライブに C を使用しています。

---

---

## ■ Solaris

次の表に、Solaris 2.8 および 2.9 オペレーティング・システムのパッチセット要件を示します。パッチは、

<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patches/J2SE> からダウンロードできます。

---

---

**注意：** Solaris 環境で JDeveloper を実行する場合は、CDE ウィンドウ・マネージャを使用する必要があります。

---

---

**表 5 Solaris オペレーティング・システムのパッチセット要件**

<b>バージョン</b>	<b>要件</b>
Solaris 8 (バージョン 2.8)	108652-74 以上
	108921-17 以上
	108940-57 以上
	112003-03 以上
	108773-18 以上
	112138-01 以上
	111310-01 以上
	109147-26 以上
	111308-04 以上
	112438-02 以上
	108434-13 以上
	111111-03 以上
	112396-02 以上
	110386-03 以上
	111023-02 以上
	108987-13 以上
	108528-24 以上
	108989-02 以上
	108993-26 以上

**表 5 Solaris オペレーティング・システムのパッチセット要件 (続き)**

バージョン	要件
Solaris 9 (バージョン 2.9)	113096-03 以上 112785-26 以上

次の表に、Solaris 8 (2.8) および Solaris 9 (2.9) オペレーティング・システムに Oracle Developer Suite をインストールするためのソフトウェア・パッケージ要件を示します。これらのオペレーティング・システム・パッケージがコンピュータにインストールされていることを確認するには、`pkginfo` コマンドの後にパッケージの名前を入力して実行します。表に記載したすべてのパッケージに対して、この作業を実行します。`pkginfo` の構文は次のとおりです。

```
pkginfo package_name
```

たとえば、次のように指定します。

```
prompt>pkginfo SUNWarc
```

コンピュータにインストールされていないパッケージがある場合は、システム管理者に連絡してください。

**表 6 Solaris オペレーティング・システムのパッケージ要件**

ソフトウェア構成要素	要件
Solaris 8 (2.8)	SUNWarc SUNWbtool SUNWhea SUNWlibm SUNWlibms SUNWsprot SUNWsprox SUNWtoo SUNWi1of SUNWxwfont SUNWi1cs SUNWi15cs

**表 6 Solaris オペレーティング・システムのパッケージ要件 (続き)**

ソフトウェア構成要素	要件
Solaris 8 (2.9)	SUNWarc SUNWbtool SUNWhea SUNWlibm SUNWlibms SUNWsprt SUNWsprx SUNWtoo SUNWi1of SUNWxwfnt SUNWi1cs SUNWi15cs

次の表に、HP PA-RISC HP-UX (64 ビット) 11.00 および 11.11 オペレーティング・システムのソフトウェア要件を示します。パッチは、<http://itresourcecenter.hp.com> からダウンロードできます。



**表 7 HP-UX オペレーティング・システムのソフトウェア要件**

<b>ソフトウェア構成要素</b>	<b>要件</b>
HP-UX オペレーティング・システム	HP PA-RISC HP-UX 11.00 (64 ビット) HP PA-RISC HP-UX 11.11 (64 ビット)
HP-UX 11.00 パッチ	Sept 2002 Quality Pack (QPK1100 B.11.00.58.5) PHKL_27813 PHSS_26559  PA-RISC 用 Java 2 SDK 1.4.1.05 に必要な HP-UX 11.00 のパッチ (次の Web サイトからダウンロード可能) <a href="http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html">http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html</a> 、または <a href="http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/sdkrte14/downloads/index.html">http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/sdkrte14/downloads/index.html</a>
HP-UX 11.00 ソフトウェアおよびパッケージ	X11MotifDevKit (B.11.00.01 以降) PA-RISC 用 HP Java 2 SDK 1.4.1 バージョン 1.4.1.05 以降

**表 7 HP-UX オペレーティング・システムのソフトウェア要件 (続き)**

<b>ソフトウェア構成要素</b>	<b>要件</b>
HP-UX 11.11 パッチ	Dec 2001 統合パッチ (Dec01GQPK11i_Aux_Patch B.03.02.06) PHKL_25212 PHKL_25506 PHKL_27091 PHKL_28267 PHNE_28089 PHSS_24638 PHSS_26263 PHSS_26792 PHSS_26793  PA-RISC 用 Java 2 SDK 1.4.1.05 に必要な HP-UX 11.11 のパッチ (次の Web サイトからダウンロード可能) <a href="http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html">http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html</a> 、または <a href="http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/sdkrte14/downloads/index.html">http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/sdkrte14/downloads/index.html</a>

**表 7 HP-UX オペレーティング・システムのソフトウェア要件 (続き)**

<b>ソフトウェア構成要素</b>	<b>要件</b>
HP-UX 11.11 ソフトウェア およびパッケージ	X11MotifDevKit (B.11.11.01 以降) PA-RISC 用 HP Java 2 SDK 1.4.1 バージョン 1.4.1.05 以降

次の表に、Linux x86 オペレーティング・システムのソフトウェア要件を示します。Red Hat Linux パッチの詳細は、<http://www.redhat.com> を参照してください。United Linux パッチの詳細は、<http://www.unitedlinux.com> を参照してください。

**表 8 Linux x86 オペレーティング・システムのソフトウェア要件**

<b>ソフトウェア構成要素</b>	<b>要件</b>
Linux x86 オペレーティング・ システム	Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 Red Hat Enterprise Linux ES 2.1 United Linux 1.0
Red Hat Linux オペレーティング・ システムのパッチ	Kernel Errata 25 (2.4.9-e.25)

**表 8 Linux x86 オペレーティング・システムのソフトウェア要件 (続き)**

ソフトウェア構成要素	要件
Red Hat Linux オペレーティング・システム・パッケージ	gcc-2.96 pdksh-5.2.14 openmotif-2.1.30 XFree86-4.1.0
United Linux オペレーティング・システムのパッチ	詳細は、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドを参照してください。
United Linux オペレーティング・システム・ソフトウェアおよびパッケージ	gcc_old-2.95 pdksh-5.2.14 openmotif-2.1.30 xf86-4.2.0

### 3.4 Windows へのインストールの準備

Windows NT/2000/XP Professional を稼動している場合、ローカル・コンピュータの Administrators グループのメンバーとしてコンピュータにログインしてください。

### 3.5 UNIX へのインストールの準備

1. **HP-UX のみ:** HP Java SDK をダウンロードしてインストールします。バージョン情報については、表 7「**HP-UX オペレーティング・システムのソフトウェア要件**」を参照してください。HP Java SDK は、HP の Web サイト <http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/sdkrte14/index.html> からダウンロードできます。
2. UNIX のグループおよびアカウントの作成
  - a. Oracle インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限を持つグループを作成します。このディレクトリは、コンピュータにインストールされた Oracle 製品を把握するためにインストーラによって使用されます。このガイドでは、oraInventory というディレクトリ名および、devsuitegrp というグループ名を使用します。
  - b. devsuitegrp グループをユーザーのグループ・リストに追加し、ユーザーがこのコンピュータに Oracle 製品をインストールできるようにします。
  - c. Oracle ソフトウェアをコンピュータに初めてインストールする場合は、Oracle ソフトウェアを所有しインストールするユーザーを、新規に作成する必要があります。このユーザーにはどのような名前でも使用できます。このガイドでは、oracle というユーザー名を使用します。devsuitegrp グループをこのユーザーのプライマリ・グループとして指定します。デフォルトの

シェルは、C シェル、Bourne シェル、Korn シェルのいずれかです。

---

---

**注意：** oracle ユーザーは、Oracle ソフトウェアのインストールと保守のみに使用します。インストーラと関係のない作業には使用しないでください。また、root を oracle ユーザーとして使用しないでください。

---

---

### 3. UNIX 環境変数の設定

次の作業は、UNIX プラットフォームにのみ必要です。

- a. Oracle Developer Suite をインストールする際には、既存の Oracle ホーム内のソフトウェアとの競合を避けるため、環境変数 ORACLE\_HOME を設定解除し、PATH、CLASSPATH、LD\_LIBRARY\_PATH および SHLIB\_PATH (HP-UX のみ) を編集して、ORACLE\_HOME への参照をすべて削除します。
- b. ローカル・ワークステーションからリモートでインストーラを実行する場合は、リモート・ワークステーションの DISPLAY をローカル・ワークステーションのシステム名または IP アドレスに設定します。
- c. TMP に、十分なスワップ領域を持つディレクトリを指定します。TMP ディレクトリはインストーラによって使用されます。TMP

が設定されていない場合は、/tmp ディレクトリが使用されます。スワップ領域の要件は、[表 2 「ハードウェア要件」](#) を参照してください。

- d. それぞれの Oracle 製品用の Net 構成ファイル間の競合を避けるため、現在インストールされている各製品の既存の構成ファイルをその製品の `oracle_home/network/admin` ディレクトリにコピーし、環境変数 `TNS_ADMIN` の設定を解除します。

### 3.6 移行およびアップグレードの注意

次のバージョンから移行またはアップグレードする場合は、このガイドの[第 7 章 「アップグレード」](#) を参照してください。

- Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2)
- Oracle Internet Developer Suite リリース 1 (1.0.2.x)
- Oracle Developer Suite コンポーネント (Oracle JDeveloper、Oracle Software Configuration Manager など) の 9.0.3 以前のリリース

### 3.7 インストール時に必要な情報

選択したオプションに応じて、次の表に示す情報が必要になります。

**表 9 インストール時に必要な情報**

項目	インストール・タイプ	例
Oracle Developer Suite の Oracle ホームのディ レクトリ名およびパス	すべて (Windows および UNIX)。	DevSuiteHome パス : C:\DevSuiteHome、 または /private/DevSuiteHome
UNIX グループ名	すべて (UNIX のみ)。	devsuitegrp
送信メール・サーバー 名	Business Intelligence、 Rapid Application Development、完全 (Windows および UNIX)。注意 : この メール・サーバーを 使用するの Oracle Reports Services のみ です。	mysmt01.mycorp.com
Java SDK ディレクトリ	すべて。	/opt/java/java.1.4.1



## 4 CD-ROM または DVD のマウント

### 4.1 Windows の CD-ROM または DVD のマウント

「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM、または「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた DVD を挿入します。コンピュータで自動実行機能がサポートされている場合は、インストーラが起動します。Oracle Developer Suite のインストールをクリックして、インストールを開始します。

自動実行機能がサポートされていない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリ、または DVD の `%developer_suite` ディレクトリにある `setup.exe` を実行して、インストーラを起動します。

### 4.2 UNIX の CD-ROM または DVD のマウント

---

---

**注意:** root ユーザー・アカウントへのアクセスが必要です。

---

---

CD-ROM または DVD の自動マウント機能が設定されていないオペレーティング・システムでは、Oracle Developer Suite のインストール CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。CD-ROM または DVD のマウントとアンマウントには、root 権限が必要です。ドライブか

ら CD-ROM または DVD を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

---

---

**注意：** すべての UNIX コンピュータでは、インストール CD-ROM または DVD をマウントする前に、Oracle データベースのインスタンスなど、Oracle プロセスをすべて停止してください。

---

---

## ■ Solaris

コンピュータに自動マウント機能が設定されている場合、CD-ROM または DVD をディスク・ドライブに挿入すると、自動マウントの設定で指定されているディレクトリに自動的にマウントされます。

コンピュータに自動マウント機能が設定されていない場合は、CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。

次の手順を実行します。

- a. 「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM、または「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた DVD を、ドライブに挿入します。
- b. root ユーザーとしてログインします。

- c. CD-ROM または DVD 用のマウント・ポイント・ディレクトリがあることを確認します。たとえば、/cdrom というディレクトリは、次のようにして作成できます。

```
# mkdir /cdrom
```

- d. 次のコマンドを実行して、作成したマウント・ポイント・ディレクトリにドライブをマウントします。

```
prompt> mount options device_name /cdrom
```

- e. root ユーザーとしてログアウトします。

- f. [第 5 章「ソフトウェアのインストール」](#)に進みます。

## ■ HP-UX

コンピュータに自動マウント機能が設定されている場合、CD-ROM または DVD をディスク・ドライブに挿入すると、自動マウントの設定で指定されているディレクトリに自動的にマウントされます。

コンピュータに自動マウント機能が設定されていない場合は、CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。この手順については、『Oracle Developer Suite インストレーション・ガイド 10g (9.0.4) for Windows and UNIX』の「CD-ROM および DVD のマウント手順：HP-UX の場合」を参照してください。

## ■ Linux

コンピュータに自動マウント機能が設定されている場合、CD-ROM または DVD をディスク・ドライブに挿入すると、自動マウントの設定で指定されているディレクトリに自動的にマウントされます。

コンピュータに自動マウント機能が設定されていない場合は、CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。

次の手順を実行します。

- a. 「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM、または「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた DVD を、ドライブに挿入します。
- b. root ユーザーとしてログインします。
- c. CD-ROM または DVD 用のマウント・ポイント・ディレクトリがあることを確認します。たとえば、`/mnt/cdrom` というディレクトリは、次のようにして作成できます。

```
# mkdir /mnt/cdrom
```

- d. `/etc/fstab` に、`/dev/cdrom` に関する次の行が存在することを確認します。

```
/dev/cdrom /mnt/cdrom iso9660 noauto,owner,kudzu,ro 0 0
```

---

---

**注意：** ファイル `/etc/fstab` には、前述の行と同様の内容が記述されている必要があります。この行がそれ以外の形式で記述されている場合は、前述の内容に書き換えてください。

---

---

- e. 次のコマンドを実行して、CD-ROM または DVD ドライブをマウント・ポイント・ディレクトリにマウントします。

```
# /bin/mount /mnt/cdrom
```

このコマンドにより、CD-ROM または DVD が、マウント・ポイント・ディレクトリ `/mnt/cdrom` にマウントされます。

- f. `root` ユーザーとしてログアウトします。
- g. [第5章「ソフトウェアのインストール」](#)に進みます。

## 5 ソフトウェアのインストール

### 5.1 インストーラの起動

インストーラを起動するには、次の手順を実行します。

1. インストーラに使用するロケールを設定します。インストーラでは、オペレーティング・システムのデフォルトのロケールが使用されません。ロケールを設定する手順は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。
2. Windows NT/2000/XP Professional を稼動している場合、ローカル・コンピュータの Administrators グループのメンバーとしてコンピュータにログインしてください。
3. UNIX オペレーティング・システムを稼動している場合は、root ユーザーとしてログインしないでください。3.5 項「UNIX へのインストールの準備」で作成したユーザー (oracle ユーザー) としてログインします。
4. すべての Oracle サービスを停止します。
5. 他のアプリケーションもすべて終了します。
6. **Windows のみ** : 自動実行機能がサポートされている場合は、ディスクが挿入されていると、自動実行ウィンドウが開いた状態になります。Oracle Developer Suite のインストールをクリックして、インストールを開始します。

7. **Windows のみ** : 自動実行機能がサポートされていない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリ、または DVD の `¥developer_suite` サブディレクトリに移動して、`setup.exe` を実行します。
8. **UNIX のみ** : 4.2 項「UNIX の CD-ROM または DVD のマウント」の手順に従って CD-ROM または DVD をマウントしたら、インストーラを起動します。
  - a. マウント・ポイント・ディレクトリとそのサブディレクトリ以外のディレクトリに移動します。たとえば、マウント・ポイント・ディレクトリが `/mnt/cdrom` の場合は、`/mnt/cdrom` とそのサブディレクトリ以外のディレクトリに移動します。
  - b. **CD-ROM の場合** : 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
prompt> mount_point/runInstaller
```

**DVD の場合** : 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
prompt> mount_point/developer_suite/runInstaller
```

## 5.2 インストールの最初の手順

1. インストーラでは、最初に前提条件の確認が自動的に実行されます。この確認は、「ようこそ」画面が表示される前に実行されます。この前提条件の確認の詳細は、Oracle Developer Suite 10g のインストレーション・ガイドの「インストーラによる前提条件の確認」を参照してください。
2. 次に、「ようこそ」画面が表示されます。「ようこそ」画面を確認し、「次へ」をクリックします。
3. このコンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストール関連のファイルを格納するインベントリ・ディレクトリが作成されます。この処理は、Windows と UNIX で異なります。
  - **Windows:** Windows のデフォルトのインベントリ・ディレクトリは、`system_default_drive¥Program Files¥Oracle¥Inventory` です。
  - **UNIX:** 「インベントリ・ディレクトリの指定」画面が表示されます。ここでは、作成したインベントリ・ディレクトリの場所（`/private1/oraInventory` など）を入力する必要があります。詳細は、3.5 項「UNIX へのインストールの準備」を参照してください。ファイル・システム内を移動してインベントリ・ディレクトリを選択するには、「参照」を使用します。インストール処理を続行するには、「OK」をクリックします。



- UNIX のみ:** このコンピュータでインストーラを初めて実行する場合は、「UNIX グループ名」画面が表示されます。前の手順で作成したグループ名を入力し、「次へ」をクリックして続行します。
- UNIX のみ:** このコンピュータでインストーラを初めて実行する場合は、`orainstRoot.sh` を実行するように要求されます。このスクリプトを `root` 権限で実行し、「続行」をクリックして先に進みます。
- 「ファイルの場所の指定」画面で、インストール先のパスと Oracle ホーム名を入力します。Oracle Developer Suite をインストールするディレクトリへの絶対パスを入力します。環境変数の置換は使用しないでください。パス名にはスペースを使用できません。

---

---

**注意:** インストール元のパスを変更しないでください。

---

---

完了したら、「次へ」をクリックして続行します。

- インストール先のコンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合は、「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面が表示されることもあります。その場合は、「単一ノードまたはコールド・フェイルオーバー・クラスタのインストール」オプションを選択します。このオプションでは、現在のインストール・ノードのみにインストールが行われます（アクティブ・フェイルオーバー・クラスタのインストール・オプションは、このリリースではサポートされていません）。

## 5.3 インストール・タイプと製品の言語の選択

「インストール・タイプの選択」では、インストール・タイプと製品の言語を選択できます。

### インストール・タイプ

選択できるインストール・タイプは次のとおりです。

1. **J2EE Development:** Oracle9i JDeveloper とそのサブコンポーネント、および Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) をインストールします。OC4J は、テスト用のデフォルトのリスナーとして設定されます。
2. **Business Intelligence:** (Windows のみ) Oracle Discoverer Administrator (Oracle Discoverer Desktop を含む) と Oracle Reports をインストールします。さらに、OC4J と Oracle Application Server Reports Services もインストールします。OC4J はテスト用のデフォルトのリスナーとして設定されます。

---

---

**注意：** Oracle Business Intelligence Beans (Oracle BI Beans) は、Oracle9i JDeveloper (9.0.4) のサブコンポーネントです。Oracle BI Beans を使用するには、J2EE Development オプションを選択してインストールする必要があります。

---

---

- 3. Rapid Application Development:** (Windows のみ) Oracle Forms、Oracle Designer、Oracle Software Configuration Manager、Oracle Reports および Oracle9i JDeveloper (9.0.4) をインストールします。さらに、OC4J、Oracle Application Server Reports Services および Oracle Application Server Forms Services もインストールします。OC4J はテスト用のデフォルトのリスナーとして設定されます。
- 4. 完全:** Oracle Developer Suite のコンポーネントをすべてインストールします。ただし、UNIX の場合、使用できないコンポーネントがあります。UNIX の場合にインストールされる Oracle Developer Suite のコンポーネントについては、表 3 「Oracle Developer Suite コンポーネントとオペレーティング・システム」を参照してください。

### 製品の言語:

Oracle Developer Suite には、コンポーネントのユーザー・インタフェース言語の翻訳機能があります。複数の言語をインストールし、NLS\_LANG 環境変数の設定により言語を切り替えることもできます。NLS\_LANG 環境変数は、インストールされているすべてのコンポーネントに反映されません。

ただし、ここでの言語の選択は、現在インストーラのユーザー・インタフェースに表示されている言語には反映されません。

言語を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「製品の言語」 ボタンをクリックします。

2. 「言語の選択」画面で、インストールする言語を「使用可能な言語」列から選択し、「選択された言語」列に移動します。
3. 言語の選択が終了したら、「OK」をクリックします。

---

---

**注意：** Oracle Designer と Oracle Software Configuration Manager で使用できる言語は英語と日本語のみです。これらのコンポーネントの詳細は、Oracle Developer Suite 10g のリリース・ノートを参照してください。

---

---

完了したら、「次へ」をクリックして続行します。

## 5.4 実際のインストール手順

次の手順に従って、インストールを実行します。

1. J2EE 以外のすべてのインストール・タイプでは、「送信メール・サーバー情報の指定」画面が表示されます。ここには、送信メール・サーバーの名前を入力します。Oracle Application Server Reports Services では、ユーザーの要求に応じて、このメール・サーバーを使用して電子メールでレポートを配布し、ジョブ完了通知を送信します。

この機能を使用しない場合は、送信メール・サーバー名は空白のままにします。

完了したら、「次へ」をクリックして続行します。

## 36 Oracle Developer Suite クイック・インストレーション・ガイド

2. **HP-UX のみ**: JDK ホーム・ディレクトリの選択画面で、HP Java 2 SDK 1.4.1 ディレクトリへのフルパスを入力します。「次へ」をクリックして続行します。
3. 「サマリー」画面の情報を確認し、「インストール」をクリックします。ファイルのインストールが開始されます。
4. 「インストール」画面が表示され、必要なファイルのコピーが開始されます。インストールの進行状況も表示されます。この画面から、インストール・ログ・ファイルのフルパスも確認できます。

インストール処理を中止するには、「インストールの中止」をクリックします。その後、インストール全体を中止するか、1つのコンポーネントのインストールを中止するかを選択できます。オラクル社では、インストール全体を中止することをお勧めします。1つのコンポーネントのインストールを中止すると、他のコンポーネントの機能が正常に動作しなくなる場合があります。

5. Oracle Net Configuration Assistant の実行中に、「Configuration Assistant」画面が表示される場合があります。Oracle Net Configuration Assistant が完了したら、その結果を「Configuration Assistant」画面で確認できます。

---

---

**注意：** Configuration Assistant の実行中には、何も表示されない場合があります。UI が表示されてインストールが一時停止した場合は、Configuration Assistant にエラーが発生しています。

---

---

6. インストールが完了すると、インストールの終了画面が表示されます。この画面には、インストールが成功したか失敗したかが示されます。「終了」をクリックし、「はい」をクリックしてインストーラを終了します。

## 6 インストール完了後の作業

### 6.1 一般的なチェックリスト

#### 1. 更新

インストールが完了したら、リリース・ノートをご確認の上、Oracle Developer Suite 10g (9.0.4) CD Pack にご使用の製品のパッチが同梱されている場合には最新のパッチを適用してください。また、Oracle Technology Network Japan の Web サイト (<http://otn.oracle.co.jp/>) では、開発者向けサービスと技術資料を確認することができます。

#### 2. NLS

各コンポーネントには、インストール時に選択した製品の言語ごとに、翻訳ファイルがインストールされています。実行時の言語を変更するには、NLS\_LANG 環境変数を設定します。詳細は、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドの第 3 章の「一般的なチェックリスト」を参照してください。

#### 3. TNS 名

インストール・タイプによっては、tnsnames.ora ファイルおよび sqlnet.ora ファイルが、`oracle_home\network\admin` ディレクトリ (Windows) または `oracle_home/network/admin` ディレクトリ (UNIX) にインストールされます。これらのファイルの更新には、テキスト・エディタまたは Oracle Net Configuration Assistant

ツールを使用できます。このツールの詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』または『Net8 管理者ガイド』を参照してください。

#### 4. ポート番号

インストーラでは、ポートの競合検出、コンポーネントごとのポート選択、選択したポートのファイルへの記録が自動的に行われます。インストール後に選択内容を確認してください。詳細は、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドの第3章の「一般的なチェックリスト」を参照してください。

#### 5. OC4J

Oracle Forms および Oracle Reports のテスト用に、Oracle Developer Suite OC4J インスタンスを起動および停止するには、次の手順を実行します。

- **UNIX の場合:** `oracle_home/j2ee/DevSuite` ディレクトリにある次のスクリプトを実行します。
  - `startinst.sh`
  - `stopinst.sh`
- **Windows の場合:** `oracle_home¥j2ee¥DevSuite` ディレクトリにある次のスクリプトを実行します。
  - `startinst.bat`
  - `stopinst.bat`



または、「スタート」メニューからこれらのスクリプトを実行することもできます。Oracle Forms メニューを選択する手順は次のとおりです。

「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite - *oracle\_home*」→「Forms Developer」

Oracle Reports メニューを選択する手順は次のとおりです。

「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite - *oracle\_home*」→「Reports Developer」

そして、次のいずれかを選択します。

- OC4J インスタンスを起動する場合は「Start OC4J Instance」
- OC4J インスタンスを停止する場合は「Shutdown OC4J Instance」

## 6.2 コンポーネント別の作業

一部のコンポーネントには、インストール後にコンポーネント固有の作業があります。Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドの第3章の「各コンポーネントのインストール完了後の作業」で、コンポーネント別のチェックリストを参照し、インストールしたコンポーネント用の作業を実行してください。

### 6.3 Oracle Developer Suite コンポーネントの起動

Oracle Developer Suite の各コンポーネントの起動方法については、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドの「コンポーネントの起動」を参照してください。

### 6.4 その他のドキュメント

このガイドの説明は、Start Here CD に収録された、Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドにも記載されています。このインストール・ガイドには、Oracle Developer Suite のインストールに関する、その他の情報も記載されています。

すべてのコンポーネントにはそれぞれオンライン・ヘルプ機能が用意されており、製品とともに自動的にインストールされます。

Windows の場合、リリース・ノートや準備作業の情報にアクセスするには、「スタート」メニューから次の順に選択します。

「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite - *oracle\_home*」→「リリース・ノート」

「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite - *oracle\_home*」→「ドキュメント」→「スタート・ガイド」

また、ブラウザからファイル `oracle_home/doc/welcome/index.htm` を開くこともできます。

最新版のドキュメント、ホワイト・ペーパー、その他の関連資料は、次の Oracle Technology Network Japan からダウンロードできます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

## 7 アップグレード

次の項では、Oracle Developer Suite コンポーネントをアップグレードまたは移行する方法について説明します。

### 7.1 以前のバージョン

Oracle Developer Suite 10g (9.0.4) の前のバージョンは、Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2) とそれ以前の Oracle Internet Developer Suite リリース 1.0.2.4.x に相当します。Oracle Developer Suite 10g (9.0.4) では、すべて新しいバージョンのコンポーネントが使用されます。これらのコンポーネントは Oracle Developer Suite 10g のインストール・ガイドの表 A.1 「Oracle Developer Suite で更新されたコンポーネント」に記載されています。

### 7.2 Oracle9i JDeveloper (9.0.4)

オンライン・ヘルプの『JDeveloper スタート・ガイド』にある、Oracle JDeveloper9i (9.0.4) へのプロジェクト移行方法に関する項を参照してください。

### 7.3 Oracle Business Intelligence Beans

Oracle BI Beans を前のバージョンからアップグレードする場合は、JDeveloper BI Beans プロジェクトを構成する必要があります。ただし、この手順はリリース 9.0.2 からアップグレードする場合と、リリース 9.0.3 からアップグレードする場合とはわずかに異なります。詳細は、Oracle

Developer Suite 10g のインストール・ガイドの第 A.3 項「アップグレードに関する注意 - Oracle Business Intelligence Beans」を参照してください。

## 7.4 Oracle Reports

6i Reports サーバーの永続ファイルやサーバー構成ファイルを再利用する場合は、それらのファイルを 10g の Oracle Reports サーバーのディレクトリに直接コピーできます。コピーされた 6i ファイルは自動的に Oracle Reports Server 10g 形式に変換されます。コピーするファイルとコピー先ディレクトリは次のとおりです。

### ■ Windows の場合：

- `6i_oracle_home¥reports60¥server¥report_server_name.ora`  
を次の場所にコピーします。
- `10g_oracle_home¥reports¥conf¥report_server_name.ora`
- `6i_oracle_home¥reports60¥server¥report_server_name.dat`  
を次の場所にコピーします。
- `10g_oracle_home¥reports¥server¥report_server_name.dat`

- **UNIX の場合：**

- `6i_oracle_home/reports60/server/  
report_server_name.ora`

を次の場所にコピーします。

- `10g_oracle_home/reports/conf/  
report_server_name.ora`

- `6i_oracle_home/reports60/server/  
report_server_name.dat`

を次の場所にコピーします。

- `10g_oracle_home/reports/server/  
report_server_name.dat`

- 前のバージョンの Oracle Reports から .rdf ファイルを開き、PL/SQL を再コンパイルする必要があります。

- Oracle9iAS リリース 1.0.x で Oracle Discoverer をインストールした場合、コンピュータでは Visibroker 3.4 も実行されています。Oracle Application Server Reports Services を使用するには Visibroker 4.5 が必要ですが、Visibroker 3.4 と同時に実行することはできません。Oracle Application Server 10g (9.0.4) の Oracle Application Server Reports Services を、旧バージョンの Oracle Discoverer と同じコンピュータにインストールする場合は、事前に Visibroker 3.4 を停止する必要があります。また、インストール後、旧バージョンの Oracle Discoverer を

実行する必要がある場合は、Visibroker 4.5 を手動で停止してから Visibroker 3.4 を起動してください。**注意**: Visibroker 4.5 を停止すると、Oracle Application Server 10g Reports Services のコンポーネントは、Visibroker 4.5 が再起動されるまで使用できなくなります。

## 7.5 Oracle Discoverer Administrator

Discoverer Administrator (従来の Discoverer Administration Edition) の旧バージョンがインストールされている場合、Oracle Discoverer Administrator で管理作業を行うには、End User Layer (EUL) をアップグレードする必要があります (リリース 9.0.2.53 以降の場合は、EUL のアップグレードは不要です)。

EUL をアップグレードする手順は、『Oracle Discoverer Administrator 管理ガイド』の第 23 章「古いバージョンの Discoverer からのアップグレード」を参照してください。

## 7.6 Oracle Forms

『Oracle Forms Forms 6i からの Forms アプリケーションの移行 10g (9.0.4) for Windows and UNIX』を参照してください。

## 7.7 Oracle Software Configuration Manager

Oracle Software Configuration Manager は、従来の Oracle Repository に相当します。

サーバー側リポジトリをアップグレードまたはインストールする前に、**Oracle Developer Suite 10g (9.0.4) CD Pack** に **Oracle Designer** の最新のパッチセットが含まれている場合には、最新の 9.0.4 パッチセットを既存の **Oracle** ホームにインストールしてクライアント・ソフトウェアをアップグレードしておきます。これで、リポジトリを 2 回アップグレードする必要がなくなります。

- リリース 6i より前のリポジトリから移行するには、次の手順を行います。
  1. **Rapid Application Development** または完全オプションを指定して、**Oracle Developer Suite** をインストールします。
  2. 新しいリポジトリをインストールします。手順の詳細は、**Windows** のスタート・メニューから『**Oracle Software Configuration Manager Repository インストレーション・ガイド**』を開いて参照してください。
  3. リリース 6i より前の既存のリポジトリのデータを新しいリポジトリに移行します。手順の詳細は、**Windows** のスタート・メニューから『**Oracle Software Configuration Manager Repository インストレーション・ガイド**』を開いて参照してください。
- リリース 6i 以降のリポジトリからアップグレードするには、次の手順を行います。
  - リリース 6i 以降のリポジトリをアップグレードする手順の詳細は、**Windows** のスタート・メニューから『**Oracle**



Software Configuration Manager Repository インストールেশヨ  
ン・ガイド』を開いて参照してください。

## 7.8 Oracle Designer

- リリース 6i より前のリポジトリから移行するには、次の手順を行います。
  1. Rapid Application Development または完全オプションを指定して、Oracle Developer Suite をインストールします。
  2. 新しいリポジトリをインストールします。手順の詳細は、Windows のスタート・メニューから『Oracle Software Configuration Manager Repository インストールেশヨン・ガイド』を開いて参照してください。
  3. リリース 6i より前の既存のリポジトリのデータを新しいリポジトリに移行します。手順の詳細は、Windows のスタート・メニューから『Oracle Software Configuration Manager Repository インストールেশヨン・ガイド』を開いて参照してください。
- リリース 6i 以降のリポジトリからアップグレードするには、次の手順を行います。
  - リリース 6i 以降のリポジトリをアップグレードする手順の詳細は、Windows のスタート・メニューから『Oracle Software Configuration Manager Repository インストールেশヨン・ガイド』を開いて参照してください。

## 8 その他の情報

### 8.1 クイック・リファレンス

リソース	連絡先 /Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/">http://otn.oracle.co.jp/</a>
インストール・マニュアルにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/tech/install/">http://otn.oracle.co.jp/tech/install/</a>
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	<a href="http://www.oracle.co.jp/support/">http://www.oracle.co.jp/support/</a>
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述します。)

### 8.2 オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL を参照してください。ただし、個々の環境に依存する問題または検証が必要となるようなケースでは、サポート・サービス（有償）の契約が必要になりますのでご了承ください。

□ OTN インストール・センター

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「テクノロジーセンター」 → 「インストール」

□ Oracle Technology Network 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「掲示板」 → 「ビギナー」の「初心者部屋」

□ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「ドキュメント」 → 「製品名」 → 「OS」

□ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

「Oracle Internet Support Center」 → 「製品 FAQ 検索」

キーワード: 「インストール」、「install」など

上記を参照しても解決されないインストール時の不明点または問題点については支援サービスを提供しています。下記オラクル製品が対象になりますので次の URL から質問してください。

[http://www.oracle.co.jp/install\\_service/](http://www.oracle.co.jp/install_service/)

- 対象製品:

Oracle Database Standard Edition

Oracle Database Personal Edition  
Oracle9i Application Server Java Edition

- 対象 OS:  
Linux x86  
Microsoft Windows

### 8.3 Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する登録制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan に登録（無償）していただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイント・プログラム、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

#### OTN Japan 登録方法

<http://otn.oracle.co.jp/>

この URL から「OTN の歩き方」を参照してください。

#### 技術資料

<http://otn.oracle.co.jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目的とする技術資料を容易に参照できるわかりやすいカテゴリになっています。

#### ソフトウェア・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリに掲載していますので、**OTN Japan** で提供している技術資料、ドキュメント等とあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジーを体験できます。

#### □ ドキュメント

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノート等のドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルにいたるまで、最新のドキュメントをタイムリに掲載しています。

#### □ サンプル・コード

[http://otn.oracle.co.jp/sample\\_code/](http://otn.oracle.co.jp/sample_code/)

開発者に参考としていただけるよう、プログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

#### □ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を使用して開発される皆様のためのコミュニティです。**Web** によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間での情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを

共有することで、より効率的な開発ができます。OTN 掲示板専用のビューア「OTN Viewer」も使用していただけます。

□ ポイント・プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/index.html>

OTN Japan 活性化に貢献された会員の皆様にポイント進呈する OTN ポイント・プログラムを設けています。獲得ポイントは OTN グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

□ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/index.html>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員の皆様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトで提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスで使用していただける OTN Software Kit (日本語版 CD-ROM) の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスを提供します。

□ お勧めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

□ お勧めサービス「エラー・メッセージ検索 (Oracle9i)」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

Oracle製品の使用中表示されるエラー・メッセージについて検索できます。

□ お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では、配信を希望された会員の皆様へほぼ月に1～2回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様へ是非ともお知らせしたいセミナーやイベント情報、製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

## 8.4 OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のOracle製品に関するご質問をはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

□ お問合せ先

TEL: 0120-155-096

FAX: 03-4326-5020

Web 問合せ : <http://www.oracle.co.jp/contact/>

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirectにてお受けできるご質問内容は次のとおりとなりますので、ご連絡の前に確認をお願いいたします。

□ ご質問にお答えできる内容（概要）

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
  - 出荷日、出荷予定日
  - 価格およびライセンス
  - システム要件
  - ハードウェア（メモリ容量、ディスク容量）
  - ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
  - 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
  - 製品バージョン（RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内）
  - サポート・サービス契約の概要  
サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりは  
ディストリビューションセンターまでお願いいたします。
- カatalog、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
- お客様の個別環境への提案



- 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談

次のお問合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関すること（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポート・レベル）

## 8.5 サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、Oracle Support Services をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support Services のサポート・サービス契約をお持ちのお客様は、次の技術サポートを受けられます。サポート・サービスには電話やインター

ネットによる技術サポートのほか、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

#### □ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受け付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「Oracle Support User's Guide」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support Services について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

#### □ OiSC（Oracle internet Support Center）

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポート・サービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での Oracle Support NewsLetter の参照
- パッチのダウンロード
- お問合せの受付、更新、状況確認
- 下記 MetaLink へのリンク
- サービス内容のご紹介

## □ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

MetaLink: Oracle Support Services をご契約のお客様は、Web によるサポート・サービスである MetaLink を 24 時間ご利用いただけます。MetaLink は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。

## □ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報（Q&A、Oracle User バックナンバーなど）
- お客様へのご案内
- Oracle Support NewsLetter は OiSC でもご覧いただけます。

## □ お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL: 0570-093812

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

ディストリビューションセンターでは、**Oracle Support Services** のサポート・サービス契約について、次のような情報をご案内いたしません。

- 新規サポート・サービス契約に関するご相談
- サポート・サービス契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート・サービス契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## 8.6 研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは下記までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### □ お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL: 0120-155-092

FAX: 03-5766-4400

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

